

第3回 松川町地域産業推進協議会 会議録

日時：平成24年6月26日（火）

午前9時30分～11時00分

会場：松川町役場 2階 協議会室

【企画委員会からの第1回目の提案】

1. 開 会

2. 町長挨拶

3. 協議会長挨拶（荻原会長）

4. 自己紹介

5. 協議事項〔荻原会長進行〕

（1）企画委員会からの提案

・農業部会（敬称略）

説明者：宮下弘希 補足説明：松下恒子

・商業部会

説明者：和地雅二 補足説明：大原昭彦

・工業部会

説明者：座光寺泰 補足説明：鋤柄富男

（2）提案について意見交換

（協議会委員）

・各部会のまとめが提案としてとらえてよいか。→【事務局】良い。

（協議会委員）

・おむすび券の推進、まちなかインフォメーションへの期待が大きい。意見の積み上げを期待する。

（協議会委員）

・松川町の歴史をひも解き、検証、分析も必要ではないか。

（企画委員）

・旧ハトヤに手を入れることを考えており、まずはキッチン等の水回りの整備。週1回の小イベントを開き拠点としていく。

商い+αの魅力が必要。おむすび券に農商工連携の余地がある。

(企画委員)

- ・埼玉県秩父市には過疎の町から空き店舗ゼロにした奇跡の商店街と呼ばれるところがあり、ぜひ視察に行こうと考えている。

農商工連携＋個人商店の工夫をしていきたい。

(深津町長)

- ・町のイメージとしての統一看板設置等はすぐにでも取り組める。

地域通貨、空き店舗、ブランド認証化等は大いに期待したい。空き店舗では商工会やあら

い商店街連合会など多数関連団体もある。ブランド認証化では何を認証していきたいのか。行政はPR、宣伝が苦手。現在、『まつかわの水』、『まつかわの木』について取り組んでいる。自己紹介の中で、ある方が意見した「町の理念」が発信されていない指摘はありがたい。

何にしても人づくりを大切にしたい。

(企画委員より質問)

- ・松川町のホームページアクセス数は。(山地参事) 1日約1,000件。

(協議会委員)

- ・松川町は工業出荷額、商業出荷額、農業出荷額からみてバランスのとれた町である。

(協議会委員)

- ・看板設置などのすぐにできるものは進めてもらいたい。

(協議会委員)

- ・元農業技術員の目から見ると、松川町は果樹に固執しすぎていないか。もっと町の歴史や物語を結びつけて行けないか。

切り花は南信州は日本一の生産地。ダリア園などを試してみてもいいか。要は町として特徴が欲しい。

(深津町長)

- ・交流センターみらいの運営について、設立についての話し合いは農業関係者だけで話が進み、商工業者の思いが聞いてもらえなかった。今は産業の拠点として位置付けたい。テント村などのイベントも検討したい。

(協議会委員)

- ・まずは手の付けられるものからやることが大切。やりっぱなしではなく、形作りのきっかけとしてもらいたい。例えばまつかわ町の水について一覧表を作って終わりではなく、ボトルリングをして売りだすなどの発想が必要。

(企画委員)

- ・工業部会の客は外であり、常にマーケティングをしている。ただ良いものを作っても売れるとは限らない。農業は外から客が来てくれるのだから何を求めているのかマーケティングをすべき。

(企画委員)

- ・現在『まつかわスタイル』の確立を進めている。マークンカードのデザインをはじめ、地域ブランドのロゴとして活用したい。農商工連携に共通して進めたい。

(3) 今後の進め方について(事務局)

- ・本日出された意見を企画委員会へ降ろし、今後はより実現できそうな提案を絞り込んでいく。今後も企画委員会を継続し、年内に第2回目の提案の場を設けたい。

(4) その他

6. 閉 会

以 上